

活躍の場は 国にも地方にもあり!

彦根市企画振興部長

小川 徳久



総務省から「彦根市」に飛び出す

地方制度を所管する総務省の職員は、霞ヶ関で汗をかいているだけではありません。実際に市町村に飛び出し、見て、聞いて、地方で知恵を養い、住民と一緒に地域を盛り上げていく、地域のために汗をかく機会もあるのです。私は現在、国宝・彦根城、石田三成の居城・佐和山城跡を有し、ゆるキャラ NO.1 の「ひこにゃん」の住む滋賀県彦根市の企画振興部長として、市職員のみなさんと一緒に彦根市のために働いています。地方勤務は秋田県庁に次いで2回目です。

「彦根市」の一職員として

彦根市では、主に市政の総合的な企画・調整を行うとともに、市の重点施策である定住自立圏の担当として、地域住民のため、圏域全体の魅力を高めるため、周辺4町との協議や各種施策のコーディネイト役なども担当しています。

このうち、市の統括的な部である企画振興部では、市長の掲げる方針を具体的な事務に落とし、他部局と調整を行いながら、時には条例制定も含めてその実現を目指します。市や市民のみなさんにとってよいものとなるよう部内で協議を重ね、考え抜いた上で成案を得たとき、それは大きな充実感や達成感となって返ってきます。そしてまた、市職員の一員として受け入れられて働く喜びや意義を感じながら仕事をしています。

このように、多岐にわたる職務の中で、市長の意向を踏まえ、総務省での業務で培った市職員とは異なる視点も持ちながら、いずれ「国民のため」に働く総務省に戻って再び仕事を行うため、日々研鑽を積んでいるところです。

国と地方で働く「やりがい」

今の日本は人口減少、少子高齢化などの厳しい状況の中で多くの課題を抱えています。地方がその潜在能力を活かし、元気になることが日本を元気にすることにつながります。日本のために国で地方を考え、実際に地方の立場で仕事をした経験を再び国での仕事に活かす。この循環の中で仕事ができるということに、私は総務省で働く「やりがい」を感じています。また、地方の立場を踏まえて他省庁と渡り合う「国と地方の橋渡し」という総務省の役割も「やりがい」の一つです。

総務省職員の活躍の場は、国はもちろん、日本全国にも広がっています。こんな魅力が詰まった総務省にぜひ一度足を運んでみてください。各地でさまざまな経験を持つ職員がみなさんの「やりがい」を掘り起こしてくれると思いますよ。

PROFILE

平成11年4月 自治省採用
行政局公務員部給与課
平成12年10月 秋田県企画振興部
市町村課
平成14年10月 公営企業金融公庫
管理調査部管理課
平成17年4月 総務省自治行政局
選挙部選挙課
選挙第二係長
平成19年4月 自治行政局選挙部
政治資金課政助成室
助成第一係長
平成20年4月 自治行政局選挙部
管理課選挙管理
第二係長
平成23年4月 現職

とある一週間

月曜日

今週の予定をチェックしつつ、部内各課の回議書の決裁。自らの部の協議はもちろん、所管上他部局の協議も多い。

火曜日

週に一度の部長会議。会議の仕切りは本職の担当。市長以下各部長で協議、報告などを行う。

水曜日

彦根市の魅力を紹介する「市勢要覧」の市長協議。市長の発想とのすり合わせ。

木曜日

定住自立圏の1市4町の企画担当で、今年度の取組報告と来年度事業の協議・調整。発足から3年を迎え、取組みの深化を感じる。

金曜日

1週間の締め括りは他部局の職員と意見交換。部局を超えた交流は夜に盛り上がります。どこでもメリハリが大切!

土・日曜日

琵琶湖岸ドライブ。琵琶湖の大きさに包み込まれます。



地域のイベントでの挨拶